



平成23年10月25日

自然科学研究科及び環境学研究科を改組

岡山大学では、平成24年4月、自然科学研究科と環境学研究科を再編して、環境問題と食料問題を国家レベル・世界レベルの課題として捉え、それを解決する人材養成を担う環境生命科学研究科と、生活の利便性や安全性・快適性の向上に寄与するための科学技術の進展を目的とし、科学（Science）と工学（Engineering）のシナジー効果を備えた機動的な大学院への発展を目指す自然科学研究科に改組します。改組に伴い、自然科学研究科バイオサイエンス専攻を構成する農学系の4講座を新設の環境生命科学研究科に移行するとともに、近年の専門領域の深化・細分化に対応し、専門性をこれまで以上に「深化」させるため、自然科学研究科の基盤教育研究組織の再編を行います。また、従来から進めてきた異分野融合の教育を発展させるため、研究科の垣根を越える「先進複合領域副専攻」を設置し、異分野融合教育を推進します。

1) 環境生命科学研究科

これまで環境学研究科が行ってきた循環型社会構築に向けた教育研究に加えて、人類の生存基盤である持続的な食料生産への対応にも重点を置いた教育研究を進め、環境問題と食料問題を国家レベル・世界レベルの問題として捉えた新しい学問体系の構築を目指して環境学研究科を改組し、設置するものです。

従来の環境学研究科が取り組んできた都市および農村における生命環境の安全と安心を保証する循環型社会形成をリードできる人材の育成課程に食料生産への目配りを加えて高度化するとともに、人類社会の持続的発展において喫緊の課題である食料の安全保障に環境保全・廃棄物処理を含めることで、「環境」と「食料」を横断した学際的かつ国際的な視野と高度の専門的能力を有する人材育成を進めます。

2) 自然科学研究科

博士後期課程を構成する基盤教育研究組織を再編します。まず、自然科学研究科と新設の環境学生命研究科の特色と役割を明確にするため、博士後期課程のバイオサイエンス専攻の一部講座を環境生命科学研究科に移行し、理学部と工学部を基盤とする新たな自然科学研究科に再編します。改組後は生活の利便性や安全性・快適性の向上に寄与するための科学技術の進展を目的とし、科学（Science）と工学（Engineering）のシナジー効果を備えた機動的な大学院への発展を目指します。



PRESS RELEASE

3) 異分野融合教育の推進

異分野融合教育の推進は、本学の中期目標に掲げており、今回の改組においても異分野融合教育の推進を目的とした「先進複合領域副専攻」を設置し、その充実を図ります。本副専攻では、自然科学研究科と環境生命科学研究科が研究科の垣根を越えて連携することにより、研究科の枠を超えた教育を実施し、従来よりも広い領域での異分野融合教育の推進を目指すものです。本副専攻は、先進基礎科学特別コース及び先進異分野融合特別コースの2つのコースで構成され、先進基礎科学特別コースでは新たな研究・技術領域におけるプロジェクトリーダーとしての能力を備えた人材の養成、先進異分野融合特別コースでは異分野融合をリードする人材の養成を目的としています。

<お問い合わせ>

岡山大学

大学院自然科学研究科長 則次俊郎

大学院環境学研究科長 吉川 賢

自然系研究科等事務部総務課 中山達也

電話：086-251-8005